

令和5年度 学校評価 目標・改善策

《資料1》

No.	評価項目	R5目標	R5改善策	評価	総合評価 ()は昨年度
1	教科教育	<p>◎「創造性」の育成を目指して、「主体的な学び」のプロセスモデルを踏まえた実践を重ねる。</p> <p>○中等教育研究会、スキルアップ講座への参加者数を増やす。とくに、県内の教育関係者の参加を増やす。</p>	<p>【授業改善】(個人としてどうだったか)</p> <p>■全職員が他の教師の授業実践を2回以上参観し、「創造性」の育成を目指した授業実践のあり方について研究を進める。できる限り、担当教科以外の教科の授業も参観するようにする。</p>	3.2	3.1 (3.0)
			<p>■「GRIT」について共通認識を形成するとともに、その育成と授業実践の関係性について整理する。</p>	2.7	
			<p>【成果の発信】(学校としてどうだったか)</p> <p>■中等教育研究会、スキルアップ講座などの開催情報を発信する機会を増やしたり、その方法を工夫したりする。</p>	3.3	
			<p>■ホームページを活用して、校内研究会の様子や研究内容などを積極的に発信する。</p>	3.0	
2	教育課程・学習指導 道徳教育	<p>◎年間指導計画の見直しを随時行い、計画的に取り組めるようにする。</p> <p>○道徳の評価の文言を再度検討する。</p>	<p>【年間指導計画】(学校としてどうだったか)</p> <p>■年間指導計画を基に、すべての内容項目が網羅できるよう、道徳部会を中心に通年で計画的に取り組んでいく。</p>	3.4	3.3 (3.2)
			<p>【道徳の評価】(学校としてどうだったか)</p> <p>■他校の実践を参考にしながら、夏休み中と冬休み後に道徳部会が評価の方法や文例を提案する。</p>	3.1	
3	SELF	<p>◎ICT機器を効果的に活用し、深い学びにつながる授業を実践していく。</p> <p>○SELFを核とした教科横断的指導計画をもとに、教科との横断的な授業を実践していく。</p>	<p>【SELFにおける授業の系統性】(学校としてどうだったか)</p> <p>■各学年のSELF担当を中心に、ワークシートや振り返りの場面でロイノートを活用し、生徒自身に学びを振り返らせるとともにその記述内容を生かして授業を進めていく。</p>	3.6	3.3 (3.2)
			<p>■各学年のSELF担当を中心に、生徒の授業後の振り返りや成果物を分析し、効果的な指導がなされているかどうかを検証し、授業計画の確認・修正などを適宜行っていく。</p>	3.5	
			<p>【教科横断的な教育課程の編成】(学校としてどうだったか)</p> <p>■身に付けさせたい資質・能力と教科との関連を各教科の年間指導計画に記述するとともに、教科横断的視点で、関連し合う内容を可視化した単元配列表をもとに、各学年のSELF担当を中心に、全職員が授業を実践していく。</p>	3.1	
			<p>■各学年のSELF担当を中心に、SELFを核とした教科等横断的指導計画の確認・修正を適宜行い、単元配列表をより明確なものにしていく。</p>	3.1	
4	キャリア教育 特別活動	<p>◎職員会議等を通じて「やまなしキャリア・パスポート」についての共通理解を図る。</p> <p>○本校のキャリア教育や指導法について共通理解を図る。</p>	<p>【キャリアパスポート】(学校としてどうだったか)</p> <p>■年間指導計画を確実に実施し、キャリア教育講演会や若桐講座の実施を継続していく。</p>	3.4	3.1 (3.2)
			<p>【組織的・系統的なキャリア教育】(学校としてどうだったか)</p> <p>■キャリアパスポート発行時には、職員へ実施目的などを含めて周知し、共通理解を図る。</p>	3.2	
			<p>■年度の途中で作成するキャリア・パスポートに保護者のコメントをもらったり、学校HPなどで発信したりすることを通して、保護者に本校のキャリア教育の成果などを知ってもらう機会を作る。</p>	2.8	
5	生徒指導	<p>◎QU、生活実態把握アンケートを定期的実施し、結果を分析し、活用するとともに、全職員で情報を共有しながら、指導を適切に行う。</p> <p>○公共交通機関のマナー、登下校のマナーなどを徹底し、地域に愛される附中生を目指す。</p>	<p>【QU調査・生活実態把握アンケート】(学校としてどうだったか)</p> <p>■QUは6月・11月に実施する。生活実態把握アンケートは、例年7月・11月・2月の実施だったが、6月・10月・1月と実施時期を1か月早め、各学年調査結果をもとに速やかに対応するとともに、長期休業前に生徒へ解決や改善がされたかどうか確認を行い、いじめ対策委員会で情報の共有と指導の方向性を共有できるようにする。</p>	3.6	3.4 (3.3)
			<p>■7月、11月の職員会議をいじめ対策委員会と位置づけ、結果及び指導の方向性を全職員で検討・共有するとともに、早期対応に努める。</p>	3.5	
			<p>【マナーの徹底】(学校としてどうだったか)</p> <p>■電車通学・バス通学・自転車通学・歩行通学それぞれのマナーに関する指導を、学年や学級で行い、生徒の意識改善に努める。職員会議内で、登下校時のマナーについて気になる点を共有し、毎月指導の改善を図る。</p>	3.1	

6	安全管理	防災・防犯	◎デジタル化した安全点検表の結果の共有を全職員ができるようにする。	【安全計画】(学校としてどうだったか) ■安全点検表の結果を入力結果が全職員がわかるようにしたり、危険箇所が把握できるようにわかりやすくする。	3.2	3.3 (3.5)
			○あらゆる場所からの避難経路や危険箇所の確認ができる実生活に即した避難訓練を行う。	【避難訓練の実施】(学校としてどうだったか) ■火災や地震、アラートに対して生徒が危機感を持って冷静に行動できるような避難訓練の方法や時期を考えていく。	3.4	
7	安全管理	交通指導	◎生徒の交通ルールやマナーに対する規範意識を高める。	【情報発信】(学校としてどうだったか) ■新年度始まってすぐ(4月中)に、各学年の現状を踏まえた交通安全指導を警察の交通安全担当の方にしていただく。その後交通安全主任と交通安全担当を中心に継続的に指導を行う。	3.5	3.5 (3.1)
			○交通委員会の生徒主体の活動で、課題を解決していくことを目指す。	【交通委員会の取り組み】(学校としてどうだったか) ■ヘルメット点検の活動を週一に設定したり、登下校についての呼びかけを継続的に行わせることで生徒の主体的な活動を促す。	3.5	
8	特別支援教育		◎より充実した支援体制を構築するために、特別支援教育に関して大学との連携を積極的に行う。	【支援体制の徹底】(学校としてどうだったか) ■SCなど、専門的な知識のある先生と連携して助言をいただいたり、附属中の実態に合った内容の講義を実施したりする。	3.3	3.2 (3.3)
			○必要に応じてケース会議を行い、関係職員で連携した支援を目指す。	【ケース会議】(学校としてどうだったか) ■ケース会議を実施する際には、専門の先生に入っいただき、適切な支援について情報交換ができるようにする。	3.1	
				■ケース会議等で確認された対応の仕方などは、生徒指導部会を通じて各職員に周知し、職員会議でも確認することで全職員で共通理解のもと、対応できるようにする。	3.1	
9	教育相談		◎SCや学年、学級担任、養護教諭と連絡を取って、情報の共有を図り、校内が連携した相談体制を目指す。	【情報の共有】(学校としてどうだったか) ■生徒指導部会の中で各学年の生徒の情報を共有し、支援の仕方やSCの利用を検討する。	3.5	3.3 (3.3)
			○教育相談の充実に努め、SCと教員間のコンサルテーションの場を設定する。	【SCとの連携】(学校としてどうだったか) ■相談室の空き時間を利用して、SCと学級担任等とのコンサルテーションができるように、相談の予約状況を職員で共有していく。	3.1	
10	組織運営		○全職員が効率よく情報を共有化し、報告・連絡・相談を徹底する。	【情報の共有】(学校としてどうだったか) ■学校運営や学年運営等で「報告、連絡、相談(ほうれんそう)」を日頃から強く意識し、情報の共有を徹底する。	3.4	3.1 (3.1)
			◎超過勤務時間の減少と職員の負担軽減を図るための組織運営、職員の計画的な年休取得につとめる。	【効果的な組織運営】(学校としてどうだったか) ■担当者全員が分担して取り組めるように、本校の課題に合わせて細分化し、明確化を図った分掌内容を担当者に割り振る。	3.1	
				■行事の精選・縮小については、実施時期や内容・取組方法等を含め、軽減できることを段階的(学年・分掌→企画・運営委員会→職員会議)に模索し、次年度年間行事予定の作成時に合わせて検討する。	2.9	
11	学校評価		○より精度の高い自己評価となるよう、評価の対象の明確化や、評価項目の重点化に努める。	【評価方法の見直し】 ■評価の際、「自分としてどうであったか」、「学校全体としてどうであったか」という2つの視点から自己評価を行い、評価の精度を更に高める。 ■改善策1つ1つについてどうであったかを問い、取り組めたかどうかを可視化できる評価方法とする。		項目には入れておくが、自己評価をする対象にはしない。
12	情報化推進		◎ICT端末の効果的な利活用	【GIGAスクール構想】(学校としてどうだったか) ■授業支援クラウド(ロイノート・スクール、Google Workspace for Educationなど)のシステムを活用した教育実践(学校運営や授業以外の生徒への学習指導・生活指導等)を通年で行う。	3.6	3.4 (3.4)
			○情報モラル教育の推進	【情報モラル】(学校としてどうだったか) ■生徒指導や外部機関と連携し、情報モラル教育の推進を行う。	3.1	